

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1193000112		
法人名	医療法人社団 富家会		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岡苑		
所在地	埼玉県ふじみ野市西鶴ヶ岡2158-4		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム鶴ヶ岡苑の近くには、同法人の地域密着型特別養護老人ホーム鶴ヶ岡苑や大井苑などがあり、互いの施設で行われる行事や市が推進しているオレンジカフェなどに参加することもできるので、地域の方との交流が盛んに行えます。天気の良い日は散歩がてらにビバホームまで買い物に出かけたり、外食等の外出支援を行う計画をしております。季節や行事毎の旬な食べ物も出来る限り取り入れて入居者様に喜ばれております。施設のお庭は自由に使える畑があり、在宅生活で行っていた趣味の家庭菜園やお花で季節を感じることができ調理の楽しみや生きがいをお忘れずにつつまでも健康的な生活を続けることができます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・週1回、認知症ミーティングが開催され、対応方法や統一したケア方法について学ばれ、その結果、入浴拒否だった利用者のシャワー浴が可能になるなど、理念を意識された介護が実践されている。また、ナラティブ活動に取り組み、例えば、個別リハビリを行う、自分でコーヒーを入れる、食器を下げる、数独を行うなど利用者一人一人が目標を定め、到達点に達すると景品と交換することができ、利用者の楽しみや意欲に繋がっている。さらに法人内研修や臨床心理士の助言を受け、高いレベルの接遇を目指したいと職員一同、取り組まれている。  
 ・運営推進会議では、コロナ禍から書面開催となっているが、利用者も参加され意見・要望が反映されるなど、有意義な会議となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所理念とし、月に1度のミーティングで月間目標を理念に基づき決定している。	法人の「されたい医療」「されたい看護」「されたい介護」の理念を認知症ケアミーティングで共有され、変化に気づく、笑顔を引き出すことに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議(現在はコロナにより書面で開催)により情報共有を行っている。	隣接の特養と一緒にレクリエーションやお花見、散歩などが検討されていたが、コロナ禍により内覧会も中止になってしまったため、室内で行える活動が実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同一法人が開催しているオレンジカフェへの参加や同敷地内で開催しているオレンジカフェへの参加予定により地域の方へ理解を深めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から書面での運営推進会議であるが、当事業所が行っている行事や時には事故報告書などへの意見や提案などを求めている。	コロナ禍により、書面開催で行われている。活動状況報告やヒヤリハット事例では対策が話し合われ事故防止に努められている。また、利用者の参加もあり、日頃のケアに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ふじみ野市へは運営推進会議報告書を月に一度送付し当事業所が行っている行事や時には事故報告書などへの意見や提案などを求めている。	市からはコロナ禍における感染症対策のメールや消耗品の配布、研修案内などをいただいている。また、オムツの申請に行かれたり、日頃から報告や相談など連携を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で「抑制廃止宣言」を掲げ、身体拘束・抑制撤廃を重要な取り組みの一つとしております。Eラーニングで抑制撤廃について職員全員が受講しました。	運営推進会議で事象事例の報告がなされ、対応策も検討されているが、職員全員を対象とした勉強会も実施され、自己チェックシートで振り返りが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットに埼玉県虐待防止条例マニュアルと通報ダイヤルを掲示し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネジャー、計画作成担当者は成年後見人制度を利用している入居者様とその後見人の方と電話連絡や話し合いを行い意向確認し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者、ケアマネジャー、計画作成担当者が一項目ごとに説明をし、介護保険の改定時には重要事項説明書を新しく送付しております。その際の疑問点などは随時電話にて説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や意見、要望などは管理者、ケアマネジャー、計画作成担当者がサービス担当者会議や電話で丁寧に聞き取り、入居者様、ご家族様の意向に沿った生活ができるよう支援に反映している。	利用者とは運営推進会議や日頃の関わりの中で聴き取られ、エアロバイクを購入されたり、レク活動に活かされている。家族からは窓越し対面や毎月の報告書等で連絡が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度スタッフミーティングを開催し、その中で職員から議題を募り、業務の向上出来るよう議論している。	コロナ禍による制限がある中、駐車場でバドミントンやキャッチボールなどのレク活動、庭で食事やお茶、畑仕事など、充実した企画が提案され、実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回(6月、12月)個人面談を行い一人一人の職場への希望や理想などを聞き取り、反映出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修をメールで全職員共有し、選択し希望する研修を受ける事が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から、法人外と同業者とはなかなか交流できないが、今後は交流できる機会を作っていく。また、毎週金曜日9時から同法人の他事業所の方を交え勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前実態調査の際にご本人様の意向を確認し、入居後意向に沿った生活となるよう検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前実態調査の際にご家族様の意向を確認し、入居後意向に沿った生活となるよう検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調時にはグループホームへの入居か特養かサ高住かサポート住宅かなど希望している支援方法を居宅ケアマネジャーと相談し提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が長年行ってきた農作業、家事(料理)などは職員が教わる事もあり、掃除機掛けや、空き段ボールの片付けなど少々力仕事に手を貸していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の鶴ヶ岡苑便りで普段の生活を知らせていただき、生活に必要なものを持ってきて頂いた際等、窓越し面会(コロナ渦の為)を通じ現在のご本人様の様子を共有するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方からのお電話やお手紙の取り次ぎで関係継続の支援をしていますが、今は外にでて外食など控えていただいております。	以前、施設で一緒だった人が訪ねて来られたり、農作業や料理を職員が教えていただくこともあり、利用者が得意にされていたことや好きなことが継続できるように努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの際は気の合う入居者様同士座っていただいたり、迷われているときは職員が気の合う方の隣に誘導するなど常に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所を退去されても、いつでも困りごとを相談できるような信頼関係を構築しているようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前より、ご本人、ご家族、ケアマネジャー等とアセスメントシートや生活歴などを元に、入居後も生活の継続が出来るよう個々のニーズを把握している。	できないことをサポートするのではなく、これまで続けてきたことやできることを汲み取られ、意欲を引き出すことに努められている。把握が難しい利用者には、行動をよく観察し、興味や関心を示した内容から思いを推測されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からお話を聞いたり、アルバムなどをお借りして一緒に見ながら入居者様からこれまでの暮らしぶりを聞くなど生活歴を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジャーが一人ひとりのニーズに合ったケアプランを作成し職員全体で共有しケアプランに沿った生活を送れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍のためサービス担当者会議を開く事が出来ない為、関係各所から意見を頂き、ご家族様へ電話連絡をしております。出来上がったケアプランはご家族様へ郵送しご納得いただいている。	定期的に行われる認知症ミーティングで検討された内容が統一できるように話し合いを重ね、また、居室担当者や家族の意向も聞き取られ、適切な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	精神的不安定な方、普段と言動が違う方は申し送り板に言動、行動を時間ごとに詳しく記入し、ICTにて訪問看護、訪問診療、富山病院物忘れ外来と共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様ご家族様の思いを一番に優先し、「されたい医療 されたい看護 されたい介護」の理念の元、どうすればニーズに応えられるかを管理者、主任、ケアマネジャー中心に職員で話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源はより多く取り入れ活用していく計画はありましたがコロナ禍の為出来ておりません。今後、各種ボランティアやびんしゃん体操の講師に来ていただくように依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を第一に優先しております。月に一度は訪問診療による健康チェックをしています。	眼科、歯科の往診のほか、医療・介護連携ソフトを活用し、職員全員が利用者のバイタルや食事量、服薬状況などが共有されており、主治医からの指示・助言も即座に伝えられるシステムが整えられている。専門医受診時は職員が付添われ、有効な受診に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気付いたこと、変化のあったこと等、訪問診療の医師や訪問看護師に伝えておきたいことはICTを活用し情報共有、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要かは訪問診療の医師や訪問看護スタッフに意見を仰ぎご家族の思いにも考慮している。また、早期退院できるようグループホームでの生活の様子等もICTで病院関係者と共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約のときには「治療に関する意思確認書」を必ず提出いただき、訪問診療、訪問看護と共有している。	現在、看取りは行われていない。状態変化があった場合はカンファレンスで確認し、施設を紹介されたり、適切な方法が提案されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒・転落対応フローチャートを各ユニットに掲示し、また不定期に訪問診療、訪問看護含め急変、事故発生時の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員、防火管理者を中心に消防訓練や災害時の避難訓練をおこなっている。	日中の火災を想定し、消防署参加のもと初期消火や避難誘導訓練のほか、台風に備えて土のうを用意されている。消防署からは火元から離れた避難経路にしたほうが良いと助言をいただき、次回に活かすことを検討されている。	持ち出し品や避難所での見守り役など、想定される役割分担を明確にされ、近隣の施設と合同で避難訓練が実施されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「されたい医療 されたい看護 されたい介護」の理念を意識し支援できるよう、月一度のミーティングで周知している。また月間目標にも「接遇」を入れるなど職員が常に意識できる様にしている。	利用者に合わせ、お伺いをたてるような言葉かけや、目線を合わせ、威圧的にならないことを心掛けている。臨床心理士からアドバイスをいただき、無理強いせず、利用者のペースを大切にされた対応に努められている。	法人内研修で適切な接遇に取り組まれています。利用者への対応方法をさらに高いレベルに高められることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントシートや生活歴などを元に入居者様とよく会話をして個々のニーズを把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のニーズの元、塗り絵、卓球、数独など今日やりたいことをご自分で決めていただいで実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問理美容により在宅にいたころと同じようにパーマやカラーを楽しむことができます。レクの中にはマニキュアやお化粧品なども取り入れています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や食器洗いなど職員と一緒にしています。また、月一度のおやつレクでは入居者様に作りたいものを聞き企画し、積極的に関わって頂いている。	料理が得意な利用者もおられ、できることは手伝っていただいている。畑でとれたサツマイモを使ったパンケーキやたこ焼き、お好み焼きなどおやつ作り、時には出前なども楽しまれており、今後は芋煮会が計画されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分も摂取量は一覧にして足りない方には摂取を促すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとり歯ブラシを手渡し、口腔ケアをしています。ご自分では出来ない方は職員がお手伝いをさせていただいております。希望の方には週一回訪問歯科も来訪しケアして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて入居者様の排泄リズムを把握し誘導させて頂いたり、素振り等で職員が誘導するようにし排泄の失敗を減らし、自立支援出来るよう配慮している。	身体機能の低下から職員2人介助だった利用者が専門職からのアドバイスに従いリハビリを継続した結果、改善した事例などもあり、トイレでの排泄を基本とした取り組みが実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量が少ない方はご本人にあった飲み物を提供し、また全体レクリエーションに出来るだけお誘いし、活動量を上げ便秘予防に努めている。またその日排泄があったかを入居者様に確認している。便秘の方はICTに入力し訪問看護訪問診療に共有し、指示にて下剤調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日で入浴時間を決めてはいますが、気分により入りたくない時は時間や曜日をずらし入浴を楽しみにして頂けるように支援しています。	湯は1回1回交換し、好みの入浴剤で楽しまれたり、ヒートショックにも注意が払われている。身体機能に合わせリフトキャリー浴も実施され、安全に配慮した入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、臥床する習慣がある方はご本人のリズムにあわせ臥床して頂いている。夜間は職員が1時間に1回巡視をして状況確認し安心して睡眠が出来るような支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬事情報をいつでも確認できるようにしています。また、訪問診療などで薬が変わった際は必ず、ICTにて訪問看護、介護職員全員に共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のニーズに合わせ、農作業、塗り絵、卓球、数独など今日やりたいことをご自分で決めて楽しんでいただいております。また、嗜好品等もご本人のタイミングで召し上がれるよう提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日帰り旅行や、花見、地域のボランティア等を利用できるように計画していたが、現状コロナ禍の為実施できていない。今後コロナが落ち着き次第行方予定。	コロナ禍から外出が困難な状況の中、庭にパラソルやテーブルを置き、体操やキャッチボールなどが行われたり、畑仕事やお茶を楽しまれるなど、閉塞感解消に努められている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時ご本人が、自ら好きなものを買っていく支援も検討していたが現状コロナ渦の為実施できていない。今後コロナが落ち着き次第行う予定。現在は、法人全体で使えるナラティブ紙幣を利用して入浴剤や、塗り絵等交換させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や絵手紙など書けるように支援をしています。電話の取り次ぎも随時行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ナラティブスペースでは季節の飾りつけを行ったり、また共用の空間は気持ちよく落ち着けるように入居者様と一緒に掃除や片づけをしています。	重厚なたたずまいで、落ち着いたシックな「癒しの空間」が作られている。利用者はエアロバイクやウォーキング、塗り絵など好きなように過ごされ、職員と一緒に卓球を楽しまれたり、ユニット間の行き来も自由に行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では話の合う入居者様同士近くに座って頂いたり、軽作業を手伝って頂くようなときも談笑しながらできるような配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様のニーズを生かす事が出来るよう、入居者様ごとに担当者を決めて掃除や使いやすいような模様替えを一緒に行い居心地がいいと思える空間を作っています。	馴染みの家具やイベント時の思いでの写真などが飾られ、塗り絵や読書を楽しまれている。シンプルで落ち着いた雰囲気での自分の部屋としてゆっくり過ごせる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を生かし掃除機掛け、除菌、配膳、下膳等行って頂き、ご本人が自分の居場所として安心して過ごせるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム鶴ヶ岡苑

作成日: 令和 3年 12月 1日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍により書面にて開催しており、活動状況報告や事故報告、ヒヤリハット事例を話し合い報告している。また、利用者の参加もあり日々のケアに活かしている。	ご家族の意見や要望を取り入れ、運営推進会議にて話し合いケアに活かす。	ご家族様に手紙やメールでアンケート実施し、意見や要望を募り、運営推進会議にて話し合い、実行に移す。	4ヶ月
2	35	防災委員、防火管理者を中心に消防訓練や災害時の避難訓練を行っている。	災害時の職員の役割分担や動きを明確にする。	持ち出し品や避難所での見守り役、誘導役等想定される役割分担を明確にし、フロアに掲示する。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが可能であれば、近隣の施設と合同で避難訓練、災害対策の訓練を実施する。	4ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。